

謹賀新年

明けましておめでとうございます

—— 和水町町議会議員一同 ——



議会議員委員会名簿

各委員会名		氏名	
議長		杉本 和彰	
副議長		荒木 拓馬	
常任委員会	総務文教常任委員会 (5名)	委員長 松村 慶次 杉本 和彰	副委員長 荒木 政士 生山 敬之
	厚生常任委員会 (5名)	委員長 杉村 幸敏 荒木 拓馬	副委員長 蒲池 恭一 森 潤一郎
	建設経済常任委員会 (4名)	委員長 高巢 泰廣 笹渕 賢吾	副委員長 小山 暁 忠文
議会運営委員会 (6名)		委員長 小山 暁 杉村 幸敏	副委員長 荒木 政士 松村 慶次 蒲池 恭一
政治倫理調査会 (6名)		会長 笹渕 賢吾 池田龍之介	副会長 杉村 幸敏 庄山 忠文 森 潤一郎 生山 敬之
議会広報調査特別委員会 (6名)		委員長 豊後 力 荒木 拓馬	副委員長 蒲池 恭一 森 潤一郎 生山 敬之
有明広域行政事務組合議会議員 (2名)		池田龍之介 蒲池 恭一	
監査委員 (1名)		庄山 忠文	

迎春

2015



年頭の挨拶



和水町議会議長

杉本 和彰

町民の皆様には、希望に満ちた新春をお健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より、町政の発展と議会運営に対してご理解とご協力をいただき、深く感謝を申し上げます。

さて、現在、長引く景気の低迷や少子高齢社会の到来など、さまざまな課題に直面し、今まさに、まちづくりのあり方そのものが大きく問われております。

こうした厳しい環境を乗り越え、魅力あるまちづくりを進めていくためには、時代を見据えた情報分析に力点を置き、執行部と互いに知恵を出し合いながら町民参画の町政運営に取り組みなければならぬと考え

ております。

新たな年を迎え、議会といたしまして、その役割と責任の重さを自覚し、決意も新たに議会の活性化と改革に取り組み、和水町をさらに魅力ある「まち」にするため全力を尽くしてまいる所存でございます。

どうかこれからも力強いご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



和水町議会副議長

荒木 拓馬

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また日頃より議会に対し深いご理解とご協力をいただき心から厚くお礼を申し上げます。さて昨年は全国各地において、農業施設、住宅、そして人命が失われるなどまれに見る災害となりました。幸にも我町においては大きな被害もなく安堵している所です。しかしいついかなる災害、被害に見舞われるかも知れません。各地域において防災意識の高揚や訓練等の必要性を感じるところであります。年末に衆議院選挙が行われ自民党の大勝となりました。今後は外交問

題でTPP農産物関税協議は特に目の離せないところであろうと思います。また昨年11月に国会で成立、施行された「まち、ひと、しごと創生法」により各自自治体が地域の特性を踏まえ総合戦略を策定し、人口減少克服と地域活性化へ向けた取り組みを地方創生元年ととらえ、支援政策を掲げており、我町の課題解決に向け行政、議会、住民が一体となった本気の取り組みが必要であると思います。住み良い町、住みたい町、住んでよかったと言える町づくりに頑張ってください。最後に町民の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

12月議会議案審議

採決結果

平成26年12月議会定例会議案一覧(町長提出一覧)

議案番号	議案名	審議採決の結果
承認第10号	専決処分の承認について（平成26年度 和水町一般会計補正予算（第7号））	全会一致原案承認
議案第52号	和水町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について	全会一致原案可決
議案第53号	和水町課設置条例の制定について	〃
議案第54号	和水町組織の再編に伴う関係条例の整理について	〃
議案第55号	和水町斎場条例の一部改正について	〃
議案第56号	和水町国民健康保険条例の一部改正について	〃
議案第57号	平成26年度 和水町一般会計補正予算（第8号）	〃
議案第58号	平成26年度 和水町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第3号）	〃
議案第59号	平成26年度 和水町簡易水道事業会計補正予算（第2号）	〃
議案第60号	平成26年度 和水町下水道事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第61号	平成26年度 和水町後期高齢者医療事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第62号	平成26年度 国民健康保険和水町立病院事業会計補正予算（第2号）	〃
議案第63号	町道の路線廃止について	〃
議案第64号	町道の路線認定について	〃

専決(補正予算)：1件
条 例：5件
補正予算：6件
その他：2件
計 14件

平成26年12月議会定例会議案一覧(議員提出一覧)

議案番号	議案名	審議採決の結果
	軽度外傷性脳損傷の周知、及び労災認定基準の改正などを求める陳情	採 択
	県河川、和仁川河川掘削及びよしの除去に関する要望書	〃
	閉会中の継続審査について（各委員会）	原案決定
	閉会中の継続調査について（各委員会）	〃
発議第7号	和水町議会委員会条例の一部改正について	全会一致原案可決
発議第8号	軽度外傷性脳損傷に関わる周知及び労災認定基準の改正などを要請する意見書の提出について	〃
発議第9号	県河川、和仁川河川掘削及びよしの除去に関する意見書の提出について	〃

条 例：1件
そ の 他：6件
計 7件

陳情等の審査結果

平成26年12月定例会

受付番号	受付年月日	件 名	審査結果	付託委員会
271-2	平成26年9月16日	横田めぐみさん拉致事件に関する陳情		配布
315	平成26年10月16日	県河川、和仁川河川掘削及びよしの除去に関する要望書	採 択	建設経済 常任委員会
346	平成26年11月18日	安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める陳情書	継続審査	厚生 常任委員会
347	平成26年11月18日	介護従事者の処遇改善を求める陳情書	継続審査	厚生 常任委員会
353	平成26年11月27日	保育料の減免に関する請願	継続審査	厚生 常任委員会

【継続審査分】

受付番号	受付年月日	件 名	審査結果	付託委員会
193	平成26年8月6日	陳情書 国宝江田船山古墳資料館の新設等について	継続審査	総務文教 常任委員会
210	平成26年8月14日	軽度外傷性脳損傷の周知、及び労災認定基準の改正などを求める陳情	採 択	厚生 常任委員会

一般会計補正予算

一般会計補正予算

85,789千円を追加

総額

70億45,995千円に増額

平成26年

12月

定例議会
報告

平成26年12月定例議会が12月10日から17日までの8日間の会期で開催されました。

本定例会では、町長提出の平成26年度一般会計補正予算など14件（専決1件、条例の一部改正4件、条例の制定1件、補正予算6件、その他2件）及び請願、意見書など議員提出の7件の議案が提案され可決されました。

今回の主な補正予算は、民生費の介護予防拠点整備事業補助金4,798千円、特別養護老人ホーム事業会計繰出金11,774千円、農林水産業費の農地台帳システム改修業務委託料3,888千円、公共土木施設災害復旧費の工事請負費2,800千円などとなっております。また、条例関係では、和水町課設置条例の制定について可決され、4月1日から施行されます。

平成26年度一般会計・特別会計補正予算

会 計 名	減額・追加	歳入歳出予算総額
和水町一般会計	85,789千円追加	70億45,995千円
和水町特別養護老人ホーム事業	22,621千円追加	5億9,653千円
和水町簡易水道事業会計	129千円追加	75,362千円
和水町下水道事業会計	410千円追加	95,705千円
和水町後期高齢者医療事業会計	968千円減額	1億46,821千円
国民健康保険 和水町立病院事業会計(収益的)	12,234千円追加	9億97,123千円



『金栗四三邸』を町の歴史・文化遺産として指定登録を！
町長 後世に残し伝えていくために実現させたい。

問 地方創生関連2法案が成立したのに伴い、平成27年度から地方自らが政策目標を設定し、人口減少の克服や地域活性化を進める『地方創生新交付金制度』がスタートすることになっているが、和水町独自の総合戦略やビジョンづくりはどうなっているのか、現時点での取り組み状況について伺う。

答 (町長) 国が示している基本方針の5項目を総合的に推進していきたい。

なお、地方創生関連事業を、行う自治体には、年間1億円が交付されることになっている。

問 和水町の特性に即した地域活性化戦略の一環として中林地区に現存する日本マラソンの父・生家『金栗四三邸』を町の歴史・文化



日本マラソンの父・生家『金栗四三邸』

遺産として指定・登録し、今後町民並びに我が国のスポーツ振興の礎として、保存・顕彰していく考えはないか伺いたい。

答 (町長) 金栗先生の遺徳と功績を後世に残し伝えていくためには是非実現させたい。

答 (教育長) 相手があることですが、保存・活用のため指定は可能である。



我が町の小中一貫教育は、行政の「公平・公正」理念に反するのでは？
教育長 指導要領に基づいて不公平さの出ない教育内容にしていこう。

問 1. 同じ町内で施設形態のちがう学校が出来てしまうと教育内容を比較してしまう。行政理念の「公平・公正」に反することにはならないか。
2. 教育委員会の独立性の確保について伺う。

答 (教育長) 1. 平成20年から分離型での小中一貫教育の研修を深めてきており、平成26年11月には併設型での研究発表も実施したところだ。分離型・併設型の不公平さが出ないように検証しながら教育を進めていく。
2. 教育委員会制度は行政委員会の1つとして独立した機関となっており、そのことが独立性の確保となっている。



男女がともに支えあい、暮らしやすいまちづくりの実現
平成23年3月に策定された和水町男女共同参画計画

問 1. 男女共同参画5年計画について進展状況を伺う。
2. その後の取り組み計画を伺う。

答 (町長) 1. 4つの重点目標と具体的施策を掲げて取り組んでいる。町職員267人中「課長補佐相当職以上」に占める女性の割合は21%で県全体の平均よりやや高い。
2. 有能な女性を見出し、活躍してもらえるように引き続き計画を立てて努力したい。



町道内田吹野線道路改良は？
町長 地山の掘削のみで道路改良の竣工がかなわなかった。

問 町道内田吹野線は平成17年度に当時の菊水町の時に地域住民からの要望を受けて議会で町道認定されているが、その後町道としての整備がされていない。合併後8年間で整備する計画だったようだが、計画と事業実施について伺う。

答 (町長) 8年間の計画は計画費委託料事業実施費を含めて6千653万2千円。計画ルートが大きな山となっていたので地山の掘削を中心に工事を進めてきた。そのため8年間でこの道路改良の竣工がかなわなかった。

問 平成20年度から25年度にかけて契約変更になり合計で324万円増額になっている。取り除いた



町道内田吹野線

答 (建設課長) 無料で地山の部分を切り下げる業者さんがいないかという中で熊本砂に頼み地山を切り下げた。

山砂は熊本砂に運んだという話を聞いたが、無償で持っていたのか。



担い手確保・営農組織の育成強化策は？
町長 売れるものを作り、売るといいう出口戦略が鍵。

問 担い手への農地集積、集落農業対策等について町長の考えを伺う。

答 (町長) 農業振興課への人材集約を図り、農業を知り地域を知り、そして売る対策が求められている。企業・団体との連携、町独自の販路開拓が重要と考える。

問 選挙公約での「農業公社創設」の具体策について伺う。

答 (町長) 現状具体的構想はない。今後検討していく。

問 耕作放棄地対策に果を対策の柱に据えては。

答 (町長) 他の産地に負けない出荷が出来れば検討事項ではないかと思う。

問 旧町間を繋ぐ合併支援道路網(県道6号線)の改良について伺う。



耕作放棄地になりうる水田

答 (町長) 旧町間を結ぶ道路福岡県と連結する道路改良は喫緊の課題、道路整備は一生懸命取り組んでいく。
答 (建設課長) 県道玉名立花線は、内藤橋から竈門橋迄のコースは一応3ルートぐらい検討されたが現段階では、どこにするかという決定の段階まで至っていない。



町長 菊水地区の中心に位置する前原地区の下水道整備は？

問 下水道事業の整備促進について伺う。

答 (町長) 宅地造成や企業誘致においても下水道の完備は必要不可欠と思う。

諸々の事情を勘案し進めていく。

問 接続率向上の取り組みと成果について伺う。

答 (町長) 接続率が下がると下水道事業会計に響く、健全性等々勘案しながら、慎重にかつ積極的に進める。

答 (建設課長) 接続率の向上については、生活環境及び水環境等の保全として補助制度があり、本年度は9件の接続、約90%の接続率となる。

問 消防施設無蓋防火水槽の問題をどう捉えているか。



無蓋防火水槽

答 (町長) 消火活動に必要不可欠な施設であり、又、衛生上問題もあり、早急に検討したい。

問 耕作放棄地の解消策について伺う。

答 (町長) 農地は食糧生産の基盤であり、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的機能を有するものであり、国県と連携しながら解消に努める。



町長 基金の余剰金運用は？
金融機関による入札制度で、病院会計は今後検討する。

問 基金運用は金融機関の預金に對して入札制度か。又、高利息の運用はできないか。病院会計の余剰金運用はできるのではないか。

答 (町長) 町の基金は平成25年度末75億9千247万7千円あり、安全でかつ確実に入札制で行っている。病院会計においては1億5千万から2億円の運用ができる。今後病院と町で検討する。

答 (建設課長) 工事費については26年度の工事で47・5mまで仕上がりしかできない。

27年度以降、当初計画高49mまで工事を進めたい。又、駐車場の整備等を含め約8千700万円の事業費が必要と見込んでいる。

問 番城グラウンド造成事業は学校用途か、運動公園整備か、その他か。今後工事費等どれ位の予算が必要か。



番城グラウンド造成



町長 (株)肥後元氣村の誠意のなさを叱責する！
対応の悪さをお詫びしたい。

問 9月定例会において提示された公金投入額と、(株)肥後元氣村役員会において提示されている額の違いの原因はどこにあったのか、検証はなされたのか。

情報公開条例に基づき、(株)肥後元氣村代表清算人宛てに、「現金出納帳」、「全金融機関通帳」の写しの交付を請求したが、資料が膨大なため交付不可能という回答に対し、回答期間が46日を要していることに、誠意がなく議会軽視も甚だしいと思うが、町の責任者としてどのように思われるのか。

提示された公金投入額の検証もしない担当課があれば、税率を上げるため微々たる金額をも嫌な思いをし、差し押さえしてまでも努力している課もある、あまりに



三加和温泉ふるさと交流センター

もアンバランス、もっと町民の血税の用途には注意を払うべきであると指摘し、今後はお互いに検証して、質の向上に努めようと提言。また、法律上、会社閉鎖後も7年から10年間、重要書類等は保管義務があり町にて保管管理いただきたい。

答 (町長) ご指摘の件、最終管財人さん等々と、その旨相談をしていくので、ご理解とご了承いただきたい。



町長 モデル地区を設けて竹林の整備に取り組んでみては。積極的な検討課題として考えていく。

問 町内にも竹の子を掘って出荷されている方が多くおられるが、高齢化もあつて放置された竹林が目立つ。又、イノシシによる被害も多い。町として竹林の現状をどう捉えているか。

答 (町長) 和木町の竹の子の出荷量は、JA玉名での取扱量が平成25年度で約484トンで、その他の事業者を合わせると、約2倍程度と思われる。有害獣の捕獲数は、年間100頭を超えるが防御柵等のない土地での被害が多発しており、町としても頭を痛めている。

問 竹林、山林の荒廃が進めば多くの問題が生じる。竹林、山林、里山は地域の宝でもあるので山林所有者の意見を取り入れながら、具体的対策を講じていく必要があるか。



整備された竹林

答 (町長) 早急に検討したい。

問 林業の振興策として、人材確保・人材育成のため、シルバー人材と連携した町独自の「グリーン人材」の創設を考えてみてはいかがか。



消滅の恐れのある自治体に上げられた
和水町をどうするのか？
町長 中心となる部署を設置する。

問 国は「地方に活力を」として人口減少克服、地方創生という課題に省庁横断で取り組むという組織を立ち上げられたが、町の考えを伺う。

答 （町長） 和水町が自らどうやって考えをまとめ、かつそれを実行出来るか、中心となる部署を設置して進める。

問 消滅の恐れがある自治体に上げられたという事は、20代30代の女性の働き場が無いから人口減少に繋がると理解している。20代30代の働きの場を考える事が地方創生に繋がると思うが。

答 （町長） 地方創生というためには労働人口の実際の生産人口の増加が1番だと思う。



子育て支援の様子

問 問題点を上げ、それに向けて取り組む事が重要であると思うが。

答 （総務課長） 働く場がまず第一かと思う。その上で、和水町で結婚をし、子どもを産み育てるといふ観点から、子育て支援の充実強化をはかる事によって、子育て支援が充実している町として、若い女性の呼び込みも可能になると考える。

スポーツで生み出す絆と和

岩手大会に参加して

荒木 拓馬

「第55回全国スポーツ推進委員研究協議会」が、平成26年9月25日、岩手県盛岡市で開催された。会場はアイスアリーナには全国から3千人をこえる推進委員が集い、協議会が2日間にわたり開催された。

そのような中で、今回スポーツ推進委員として、最高の賞である文部科学大臣賞の表彰を戴き喜びにたえない。岩手県も、3年半前の東日本大震災津波で被災し全国各地からいただいた厚意、支援が被災地のスポーツ活動の再開と地域コミュニティの再生力になった。その御礼を込め、スポーツで生み出す絆と和をスローガンの下、国体開催2年前にスポーツ環境の整備と活性化そして住民の関心を高める機会として役割を担っている大会である。震災の経験を踏まえ改めて地域における、社会の絆の



第55回全国スポーツ推進委員研究協議会岩手大会会場にて

重要性、交流促進に果たすスポーツ推進委員の役割と今後の方向性、スポーツに関する法整備や新しい施策や時代のニーズに対応すべく意識改革や資質向上の必要性を感じる大会となった。

議員研修報告

地方創生を先取りした『消滅しない』まちづくりの現地報告！

和水町議会運営委員会委員長 小山 暁

平成26年度の議員研修を10月28日から2泊3日の日程で、鳥取県日南町と島根県邑南町2町を視察してきました。いずれの町も農林業を主産業とする典型的な中山間地域で、高齢化率46.5%と41.5%の超過疎の町でしたが、それにひるむことなく、想像以上に活性化策が功を奏している印象を強く受けました。例えば、人口規模からすれば予算規模も大きく、すでに光ファイバーも駆使されており、保育料の負担軽減やデマンド方式の公共交通等も敷設されており、町独自の健康づくりや若者が定住できるしくみづくり、定住促進対策にも取り組んでおり『田園回帰の戦略』としての『日本一の子育て村構想』を打ち立てて『消滅しない』まちづくりを懸命に進めています。一方、地方分権に対する取り組みとして、議会基本条例の制定や議会報告会・



現地研修

意見交換会の開催をはじめ、議会テレビ中継等町民サービスの充実ぶりが伺えました。その他にも行政区の再編による住民と行政が『協働』してまちづくりに取り組んでいる姿はまさに地方創生を先取りしたすばらしい町おこしのモデル町でした。

政治倫理調査会報告

町民から信頼される議員をめざして

和水町政治倫理調査会会長 笹 渕 賢 吾

政治倫理調査会は今回が初めての研修です。11月7日、地方自治法に詳しく、議員必携作成に携わってこられた鹿児島県の池田正夫先生から議員の政治倫理に関し、お話を伺いました。

池田先生から、選挙で選ばれた議員は、住民の模範となるべき日ごろの行動が大切であること。地方自治法をしっかりと勉強し、日常的に住民の声を良く聞き、調査研究を行い、町民の幸せのための町づくりの提案、議論を大いに進めなければならぬとの話でした。

和水町議会だよりの内容について、住民から見えてどうなのかを考えて発信すべきとの指導があり、大変有意義に学ぶことができました。

この研修で学んだことを生かし、議会議員として襟を正し、町民から信頼される議員としての倫理観を身に付けるとともに、町民の願いに応



政治倫理について研修

える活動が求められると痛感したところです。